

社会教育の学習方法における印刷メディアの利用*

橋本祐希 (学籍番号 200621330)

研究指導教員: 葉袋秀樹

副研究指導教員: 平久江祐司

1. 研究の背景

本研究では、学習機会の提供を進める観点から社会教育を取り上げる。社会教育には、学習形態として集合学習と個人学習があり、学習方法には、講義方式、ディスカッション方式と、メディア中心のメディア利用の学習がある。前者は主に集合学習で選択され、後者は主に個人学習で選択される。特に、人々の学習が高度化、専門化する中で、個人学習の意義は高まってきており、個人のニーズに合わせた学習方法も提案されている。メディア利用の学習では、人々は学習メディアを用いる。現在、学習メディアには、印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディアの三つがある。

ここでは、電子メディア以前の時代を取り上げる。1990年代以前の社会教育関係の文献では、社会教育の学習方法について、集合学習の方式や視聴覚メディアは多く取り上げられており、印刷メディアについては十分に取り上げられていない。これが、社会教育施設として、公民館が重視されて、図書館があまり取り上げられていない状況に関連しているのではないだろうか。

図書館については、資料提供を行った事実を述べるのみで、図書館が提供する印刷メディアが学習にどう役立ったのかは、社会教育関係の文献、図書館関係の文献のどちらでも深く論じられていない。

2. 研究目的

本研究の目的は、電子メディア登場以前の社会教育理論において、学習方法として印刷メディアが果たす役割、それを提供する図書館と学習の関係を明らかにすることである。

*“Use of print media in methods of learning in Social Education” by Yuuki HASHIMOTO

3. 学習の概念についての論議

学習の概念が説明されている参考図書やハンドブックでは、心理学的に学習を説明したものがほとんどである。例えば、藤永ら^[1]により、条件付けの学習、試行錯誤学習、問題解決学習、観察学習という学習の型が紹介されている。これらは、他の参考図書でも詳しく述べられている。

岩内亮一ら^[2]により、学習は「言語を媒体とする」と明確に述べられている。特に印刷メディアと関連付けて解説してあるものは、富山房百科辞典編集部によるもの^[3]のみである。

4. 個人学習における学習方法をめぐる論議

社会教育のテキストには、学習方法の項を設けてあるものは少なく、これまで、社会教育の理念や歴史、指導者のあり方、行政の位置が論じられてきた。

社会教育の学習方法については、斎藤伊都夫ら^[4]が論じているにとどまっている。この中で、斎藤は個人学習の重要性を指摘し、印刷メディアを取り上げ、学習の総量から見ると、印刷媒体を利用しておこなわれる個人学習だけでも集合学習よりも圧倒的に多いと紹介している。

フォール報告書検討委員会^[5]は、学習と印刷メディアのかかわりについて「文化伝達の媒体」として、「書き言葉」は、知識を構造化し整理し、情報を永続的で利用しやすい形に収集する際に不可欠なものとしている。

NHK 放送文化研究所の学習関心調査^[6]は、成人の学習内容や方法について3回にわたる調査をまとめたものである。第3回調査で、成人の学習情報入手経路で、最も多かったのは「新聞・雑誌の広告や紹介記事」で46%である。現在の学習方法・形態は、第1回、第2回ともに「本・雑誌」が31%の行動で使われている。「本・雑誌」がよく使われているのは、複合

利用のケースが少なくないためとされている。

立田慶裕⁷⁾は、本は人の成長にこたえてくれると述べ、「読書は、ひとりの学習者の生涯にわたる学習活動である」としている。

5. 社会教育における図書館の位置づけ

元木健⁸⁾により、尼崎市の市民の学習機会・ニーズに関する調査結果が紹介されている。余暇時間の過ごし方で、「新聞や雑誌を読む」が80.6%、「本を読む」が35.7%と高い割合を示している。学校を出た後の学習形態は、「本や雑誌で自分で学んだ」が22.1%である。元木は、読書活動の機会を公的に保証する図書館は重要であると述べている。元木は、図書館に関して、「人々の多様な自主的学習、研究及び調査に利便を供し、また、高度化・専門化した知識や情報を提供するための中心的施設」と評価している。

しかし、佐伯信男⁹⁾などの生涯学習と図書館をテーマにした文献では、学習メディアのうち、視聴覚メディアについては多く論じているが、印刷メディアについて触れているものは一部である。

6. 有識者の学習方法に関する見解

鈴木真理氏(東京大学)、原由美子氏(NHK放送文化研究所)、立田慶裕氏(国立教育政策研究所)に聞き取り調査を行った。

調査によって、社会教育研究者には、これまで、印刷メディアが根本的な学習メディアであり、それを提供している図書館が学習に大きな役割を果たしているという認識はあまりなかったことが明らかになった。また、図書館関係者も、社会教育に携わっているという認識はあまりなく、自らの評価体系を量的な面から構築している傾向が見られるのではないかと指摘があった。さらに、日本においては、図書館と社会教育が結びついておらず、社会教育といえば集合学習であり、本や雑誌を読むという行為は個人の行為であり、学習とはとらえられていないことが明らかになった。

7. まとめ

教育学、生涯学習関係の参考図書、生涯学習関係のテキストでは、学習の定義や学習とメディアの関係について明確に論じられていない。生涯学習・社

会教育関係の文献では、社会教育と印刷メディアや図書館の関係を深く論じているものは少ない。図書館関係の文献では、図書館による計量的なデータで施設運営を評価するにとどまり、提供した印刷メディアが学習にどのように役立ったかには触れていない。

しかし、学習関心調査のデータ、過去の一部の論議、社会教育学者に対する聞き取り調査によって、生涯学習・社会教育における学習において印刷メディアがかなり大きな役割を果たしていることが明らかになった。

これまで、社会教育における印刷メディアに対する関心や、図書館における社会教育に対する関心が低かった理由としては、社会教育学と図書館学の分離した関係が指摘されている。

印刷メディアを多く収集、提供している図書館が、学習メディア論、学習方法論に目を向けることは人々の学習をより充実させることにつながるといえる。

文献

- [1] 藤永保, 森隆夫編. 現代教育小事典. ぎょうせい, 1980, 357p.
- [2] 岩内亮一, 本吉修二, 明石要一編. 教育学用語辞典. 学文社, 2006, p.25
- [3] 富山房百科辞典編集部. 国民百科大事典. 富山房, 1934, p.826
- [4] 斉藤伊都夫, 辻功編. 社会教育方法論. 第一法規, 1975, 269p.
- [5] 国立教育研究所内フォーラム報告書検討委員会. 未来の学習. 第一法規, 1975, p.90-98
- [6] NHK放送文化研究所. 日本人の学習:成人の学習ニーズをさぐる. 第一法規, 1990, 370p.
- [7] 赤尾勝己編. 現代のエスプリ 466:生涯学習社会の諸相. 至文堂, 2006.5, p.156-168
- [8] 元木健. 市民の読書活動と公民館の役割. 図書館雑誌, 1984.5 No.39 Vol.5 p.25-29
- [9] 佐伯信男. 生涯学習と図書館. 日本図書館協会, 1988, 279p.